

自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました

令和5年10月19日（木）、自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました（於 自由民主党本部701号室）。

日本バス協会からは清水会長はじめ、宮本副会長、宮坂高速バス委員長、古川環境対策委員長・外国人運転者受入推進部会長、早川税制対策委員長、平位 IT 情報化推進特別委員長などが出席しました。

冒頭、バス議連会長の逢沢先生より、今、バスは運転者不足、燃油高騰といった厳しい経営環境にあり、全国で、ダイヤの維持が困難な状況が顕在化してきた。以前のような内部補助によるビジネスモデルは崩壊していることを認識し、補助金の算定方法の変更、人手不足対策、EVバスへの補助、キャッシュレス化といったバス事業の持続可能な体制を作り上げていきたい、とのご挨拶がありました。



続いて清水会長から、人手不足対策には、運賃を上げ、賃上げする必要があること、また、補助金の算定方法の変更、外国人運転者の制度化、EVバス補助金の増額、キャッシュレス化の推進等について強く要望しました。



出席された先生方からは、補助金の算定方法の変更は必要不可欠であること、キャッシュレス化は補正予算を組んでやるべきである、国土交通省は持続可能な公共交通のあり方を考えて、抜本的な制度改革を検討すべき、といった多くのご発言をいただきました。

これらに対し、国土交通省からは、補助金の算定方法の変更については、しっかりと制度を変えていきたい、外国人運転者の件は、法務省と話を詰めていく、キャッシュレス化の件は、令和4年度補正予算から100%補助できるようになっていることを周知していく、などの発言がありました。

最後にご出席の先生方により、バス事業の継続に必要な国の支援を求めるバス議連の決議が満場一致で決定され、その取扱いは逢沢会長に一任されました。

【出席の先生方64名】